

Since 1976

横浜市立元石川小学校

令和2年4月30日



学校だより

5月号

Email y3motois@edu.city.yokohama.jp

HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/>

横浜市青葉区美しが丘4-31-1

TEL 045(902)1821

素直な思いを言葉に

校長 鈴木 彰

緊急事態宣言の状態が続き、ストレスがたまる毎日です。ご家庭では、命や健康の心配をはじめとし、職場のこと・お子さんや家族のことなど生活のすべてが大変な状況だと思えます。学校もこれだけの臨時休業措置は初めてのことで、児童が登校しない毎日を心配したり、いつ再開するか分からない中での準備に振り回されたりと混乱しています。とりわけ、長い休みで、子どもと教師(や学校)とのつながりが少しずつ薄れていくのが不安です。多くの職員が子どもたちにメッセージを届けたいと、学年だよりの裏面や学校ホームページで思いを伝えています。

この状況下で、「学校で授業ができない」ということがこれほど重いことなのだと再認識しました。学習課題の提示、市教委の動画配信、児童が傍にいない状況の中で一生懸命に取り組んでいます。その実施にあたってはご家庭にお願いするしかない状態です。ご家族の皆様にも、学習のご協力をお願いするのは恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

10年ほど前、横浜から生まれた文部科学大臣の方が、私が担任していたクラスの児童と交流をしてくださり、よい学びが生まれました。その中で、「日本一短い『母』への手紙」という本をいただきました。

「お母さん、
雪の降る夜に私を生んでくださってありがとう。
もうすぐ雪ですね。」

「あと10分で着きます。
手紙より先に着くと思います。
あとで読んで笑ってください。」

「私、母親似でブス。」娘が笑って言うの。
私、同じ事泣いて言ったのに。
ごめんね。お母さん。」

「桔梗が、ボンと音を立てて咲きました。
日傘をさしたお母さんを、思い出しました。」

「絹さやの筋をとっていたら
無性に母に会いたくなった。
母さんどうしていますか。」

本当に短い文なのですが、何か心を打つものがあります。何の飾りっ気もない言葉なのに……。いや、むしろ飾りが無いから心を打つのかもかもしれません。

家族水入らずのこの時期、素直な思いを言葉に表す学びを親子でしてみませんか。二行詩、三行詩。家庭でできる簡単で深みのある表現学習です。そして、家族の心もつながります。